

PHARMACY DIGEST

4・5

2023 April & May

【巻頭インタビュー】…… 2 P

* 視覚情報が制限されたオンライン服薬指導では 質問の仕方と簡潔な説明が重要 対面とは違うオンラインならではの対応と工夫

株式会社ことぶきメディカル ことぶき薬局 津田沼店 薬局長 曾我真希人

【薬業連携 ～薬剤師が変わると病院が変わる～⑩】…… 6 P

* 服薬情報提供書には、何を書けばよいのか

ファルメディコ株式会社 代表取締役社長／医療法人嘉健会 思温病院 理事長 狭間研至

【新連載／薬剤師教育と研修のポイント ～マリン調剤薬局における実践例から～①】…… 7 P

* 新人研修導入の取り組み

株式会社アクア マリン調剤薬局 プロジェクトマネージャー エリアマネージャー 桂店 飯塚知慈



バックナンバーはこちら

PHARMACY DIGESTは



日本ケミファ株式会社

がお届けいたします

視覚情報が制限されたオンライン服薬指導では 質問の仕方と簡潔な説明が重要 対面とは違うオンラインならではの対応と工夫

2020の年4月10日に、厚生労働省がオンライン服薬指導の時限的・特例的な対応を認める方針を示すなど、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行は、オンライン診療やオンライン服薬指導の導入の大きなきっかけになった。しかし、実際にオンライン服薬指導を実施している保険薬局はまだ限られているのが現状だ。ことぶき薬局津田沼店(千葉県)は、2021年7月からオンライン服薬指導を開始し数多くの実績を上げている。その手順や利点と課題、対面の服薬指導との違いなどについてインタビューを行った。

地域密着型の診療所とともに 在宅やオンライン服薬指導を実施

——最初に、貴社の事業概要を教えてください。

曾我 株式会社ことぶきメディカルは、東京都をメインに神奈川県、埼玉県、千葉県の1都3県で29店舗の保険薬局「ことぶき薬局」を展開しています。ほとんどが診療所の近接地の出店で、居住者の多いエリアを主体に地域に密着した展開がなされています。訪問薬剤管理指導も弊社の店舗全体で月170件程度実施していて、ゆくゆくは地域連携薬局を取得する方向で動いています。

本部によると、今後は特定の地域内に店舗を集中させる「ドミナント化」を進めていくとのこと。今ある既存店舗の近くに新店を出して、24時間対応での連携体制や、医薬品供給での連携を強化することが狙いです。

——千葉県には何店舗展開していますか。

曾我 津田沼、新津田沼、松戸の3店舗です。津田沼店と新津田沼店は近いので、医薬品供給などで連携しています。

——こちらの津田沼店では、オンライン服薬指導を実施しているそうですが、まず貴局の特徴から教えてください。

曾我 一般内科、呼吸器内科などを標榜する診療所の処方箋が85～90%を占めますが、津田沼駅から徒歩5分という立地のため、近隣の他の医療機関からも応需しています。

なじみの患者さんが多く、慢性疾患などで継続的に通っていただいている高齢の患者さんが中心です。ただ、気管支喘息などの小児の患者さんもいますし、駅のそばにあるため、風邪などで20～30代の方が処方箋を持ち込むこともあり、全体の年齢層は幅広いですね。

当局の人員体制は、常勤2名、時短勤務とパートの2名の薬剤師に加えて、常勤の事務職1名です。2020年10月ごろに訪問薬剤管理指導を始めるのに伴って、薬剤師数を増やしています。

在宅分野に乗り出したのは、近隣の先生が訪問診療を手がけたのがきっかけです。近くに訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局が少ないとのことで、当局で受けることにしました。個人在宅のみで月20軒ほどになります。長年通っていた患者さんが通院できなくなり、訪問診療に移行するケースもあり、終末期の患者さんも多いですね。

——新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大してからは、患者さんの動向などに変化はありましたか。

曾我 私がこの店舗に異動してきたのはコロナ禍の最中の2021年3月、薬局長に就任したのが5月なので、それ以前の状況は詳しくありませんが、受診控えは見られ、風邪などの若い患者さんや小児の患者さんが減りました。津田沼店は、もとは薬剤師1～2人体制の小規模な店舗で季節による変動もあったので、それほど深刻な影響はなく、その後導入したオンライン

■ 株式会社ことぶきメディカル 概要 ■

1986年に東京都中野区に1号店を開店。「笑顔と健康にあふれる社会づくり」を掲げ、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県に29店舗を展開。従業員数150名。ホテル事業やレジャー事業、不動産事業などを行うミナックスグループの傘下で調剤薬局事業を手がける。

- ・本社所在地：東京都新宿区市谷本村町3-18 エムズビル6階
- ・URL：http://kotobuki-med.com/company/



▲曾我氏が勤務している「ことぶき薬局津田沼店」。



▲今年1月、グループの本社ビル(エムズビル)が都内に竣工した。

▶「ことぶきメディカル」の本社も本社ビル内に移転し、業務を行っている。



◀ことぶきメディカル取締役副社長の藤咲健太郎氏(左)と、同社薬局運営部部長の横山隆司氏。



ン服薬指導で十分カバーすることができました。

ただ、当局は2～3人が来局すると、一杯になってしまうような小さい店舗です。定期的に薬が必要な慢性疾患の患者さんは受診されていましたが、調剤を待つ間“密”にならないようにと、外で待ってくださる方もいました。

COVID-19患者を主な対象に 東京都や千葉市など広域対応

——オンライン服薬指導はいつから、何をきっかけに取り組み始めたのですか。

曾我 メインで処方箋を受けている診療所の先生がオンライン診療を始めたことをきっかけに、2021年7月から始めました。弊社でも、以前からオンライン服薬指導用のシステムを入れていましたが、他の店舗も含め使用実績はほとんどありませんでした。今回は、同院の先生が積極的にオンライン診療に取り組まれていたことから、同じシステムの薬局版を試験的に導入して取り組みました。

インターネット通販の国際的な企業による薬局事業参入の話もあり、自分としても患者さんが実店舗に来店せず、オンライ

ンでやり取りする未来が到来する可能性は意識していました。それならば、早いうちに取り組んだほうがいいと思っていたので、良い機会でした。

——オンライン診療のシステムは今いろいろなものがありますが、保険薬局では処方箋を発行する医療機関とシステムを揃える必要があるのでしょうか。

曾我 薬局側としてはシステムを一本化していきたいのが本音ですが、今はオンライン診療のプラットフォームが乱立しているので、どうしても処方元の医療機関に合わせて複数のシステムを入れなければならないのが実情だと思います。

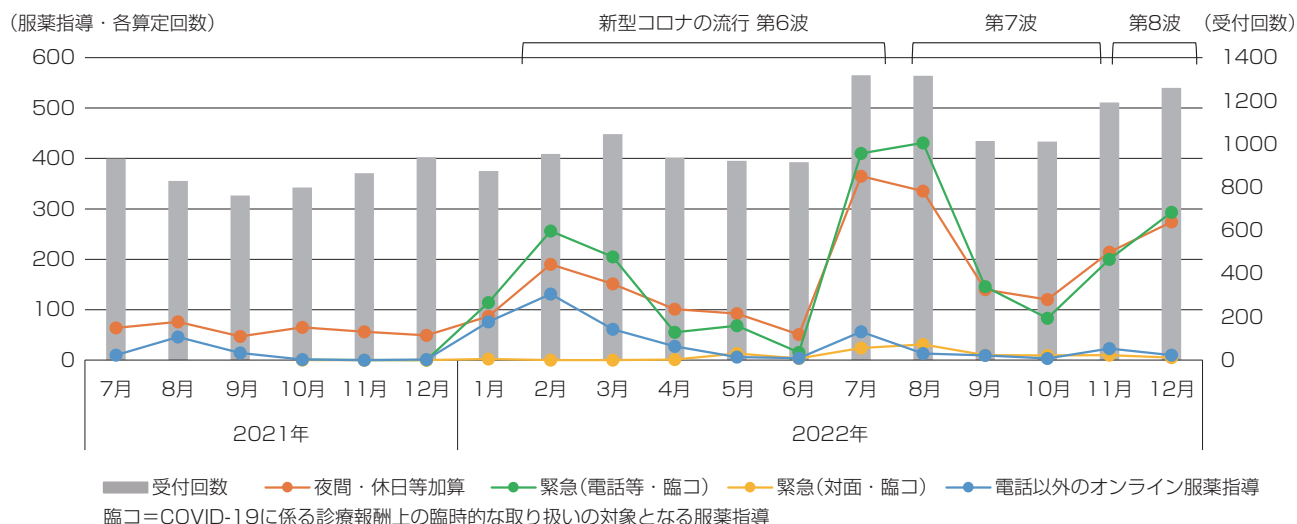
ただ、今のシステムを使った個人的な実感としては、プラットフォームを介して医療機関と処方箋などを共有するのでなければ、同じシステムに揃える意味はそれほどないようにも思います。当局の場合、処方箋は医療機関の方が持ってきてくださったりするので、患者さんのアプリ導入の手間などを別にすれば、同じシステムでなくてもそれほど影響はないように感じています。

——2020年4月10日に厚生労働省が、COVID-19感染拡大に伴うオンライン服薬指導の特例的な対応を認める方針を示した「0410事務連絡」では、映像と音声によるオンライン対応のほか、電話のみの対応も可能とされていましたね。貴局では、電話と、オンラインでの2通りの方法で対応しているそうですが、その実績などを教えてください。

曾我 当局でオンライン服薬指導を実施したのは、先の診療所でオンライン診療を受けた患者さんのみです。定期受診の患者さんにも行ったことはありますが、ほとんどはCOVID-19の新規患者さんです。スマートフォンやパソコンに専用アプリをダウンロードし、必要な情報を登録する必要があるため、やはりデジタルに慣れた世代でないと難しいと思います。

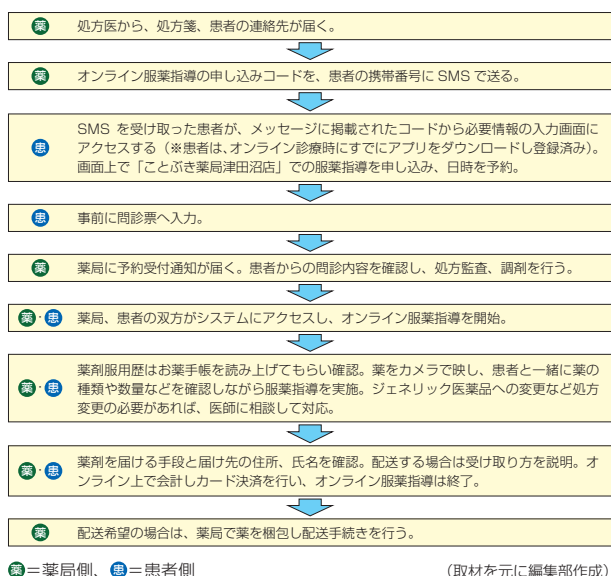
オンライン服薬指導件数は、月によってかなり差が大きいのですが(図1)、コロナ禍で一番多かったときは、1日に約10件に上り、電話と合わせて40件程度実施したこともあります。オンライン診療を行っている医療機関が限られていたことから、東京都や、千葉県でも千葉市、市川市など遠方の患者さんからの依頼もありました。

図1 津田沼店におけるオンライン服薬指導受付回数と各算定回数の推移(2021年7月～2022年12月)



(資料提供:ことぶきメディカル)

図2 津田沼店でのオンライン服薬指導の流れ



オンライン服薬指導の流れ 障壁はインターネット通信環境

——オンライン服薬指導はどのような流れで行うのですか。

曾我 オンライン服薬指導の必要な患者さんがいると、処方箋が医療機関から直接持ち込まれるか、ファクスで届きます。患者さんの連絡先も送られてくるので、こちらから携帯電話の番号に案内のショートメッセージサービス(SMS)を送り、予約をしてもらいます(図2)。

そして、予約された日時にオンラインで服薬指導を行い、料金を提示して、あらかじめ患者さんが登録したクレジットカードで会計を済ませます。その後、薬の配送手配をします。COVID-19に関しては患者負担がなく、運送料も都道府県が負担することが多かったため、会計はスムーズでした。なお、当局から徒歩5分圏内の方などについては、患者さんのご希望があれば、できる範囲で直接お届けしています。

——オンライン服薬指導では、利用方法の説明も必要になりますか。

曾我 患者さんには先に医療機関で、オンライン診療用のアプリをダウンロードしてもらっているのですが、それを使って服薬指導も受けられます。ですから、こちらではアプリ導入に関する説明をしなくて済みます。この点は、医療機関と同じシステムにしているメリットですね。

一方で、服薬指導の予約方法や操作の仕方などについては、患者さんから説明を求められることもあります。電話で説明すれば大体の方は理解していただけますが、その後でオンライン服薬指導をすると時間も手間も余計にかかってしまうため、そのまま電話で行うことが多いですね。

——オンラインでの服薬指導ができなかった人では、どのような理由が多いのでしょうか。

曾我 目立つのは、こちらがSMSを送っても反応がないケースです。最近はSMSを使用していない人も多く、そうしたことが影響しているのか、そもそも手順がよく分かっていない方もいるかもしれません。ただ、一番多いのは、インターネット通信環境が悪くやり取りができないことです。40～50代の、

比較的デジタルに慣れた世代でもこうしたケースはあり、電話での服薬指導に切り替えるケースは全体の2～3割です。

なお、操作が分からない、予約ができないといった方は、それほどはいません。高齢者については、そもそも診療所から送られてきた連絡先が携帯ではなく自宅の電話番号であることも多いので、最初から電話対応することが多いですね。最近では、COVID-19患者さんへの服薬指導は電話がほとんどです。

耳からの情報収集が中心 視覚情報が限られる中での配慮

——対面での服薬指導と比べて、違いを感じることはありませんか。

曾我 オンライン特有の問題として、こちらのカメラの設定位置では、画面を介して患者さんと話す際にお互いの目線が合わないため、こちらの話が理解されているのか分かりにくいのです。また、患者さんと話すタイミングが重なってしまうなど、呼吸を合わせる難しさも感じます。

服薬指導に関しては、患者さんの手元には薬がない状態なのでカメラで薬を映して確認してもらいますが、細部までは見えず、薬の種類や数量を画面上で判別するのは難しいと思います(写真1)。薬剤服用歴の確認の際も、今の画質ではお薬手帳の判読は難しいため、患者さんに読み上げてもらわなければなりません。ただ、症状や病名、薬剤名の先頭何文字かが分かれば薬剤名は予測できるので、薬剤師の力の見せ所でもあります。

予約時に問診への回答を入力してもらっているため、基本的なことはそれらの情報に沿って聞けば良いのは利点ですね。指導を開始してから会計まで、大体10分以内で終わります。

——それ以外にもオンラインならではの利点はありませんか。

曾我 患者さんは薬局を訪れているときよりも、話をして下さる印象があります。また、少しですが、画面を通じて家での様子や子どもの声など、患者さんの背景が見えるので、オンラインのほうが情報収集はしやすいですね。ただ、中には手短かに終わらせてほしいという方もいますし、雰囲気を感じ取ってそれぞれの患者さんに合わせて対応していくことが必要だと思います。それは対面指導と同じです。

——服薬指導で工夫や留意していることはありますか。

曾我 お薬手帳が見られず、口頭のやり取りで情報を収集しなければならないので、患者さんへの質問の仕方にはより配慮が必要になります。例えば、「今飲んでる薬を教えてください」と聞くと、外用薬を除外してしまう方もいて、最初のころは苦労しました。ですから、今は「他に受診している医療機関はありますか」と聞き、「ある」という返答ならば、重ねて「使っているお薬はありますか」と尋ねるようにしています。オンライン服薬指導を経験して、質問の仕方次第で答えが変わるということを意識するようになりました。

一方で患者さんも、薬の実物や薬剤情報提供書(薬情)を見ずに説明を受けます。仔細を説明しても耳から入る情報だけで理解するのは難しいため、オンラインでは簡潔に分かりやすく説明する能力がより求められるように思います。後日、薬について「この薬は何だったか?」などと電話が入ることもありますが、それはそれでいいと割り切っています。オンラインでは細かく説明しすぎず、疑問があったら後日薬が届いてから質問しても



写真1 オンライン服薬指導をデモンストレーションしている様子。PTPシートを見せながら、スマートフォン側（患者側）の画面では、薬剤名まで判読するのは難しいことから、やりとりには工夫が必要になる。



写真2 梱包が終わり、送付準備ができた処方薬。この日は20件以上が患者へ発送された。
（写真提供：ことぶきメディカル）

らうほうが、患者さんも納得しやすいように思います。

——視覚情報が限られることで、対応に工夫が必要になるわけですね。

曾我 そうですね。オンラインや電話での服薬指導では、患者さんからの問い合わせの電話は確実に多くなります。薬についての補足説明もそうですし、「今、こういう症状なんだけど薬を飲んででもいい？」など、服用の相談などもあります。こちらから一度電話連絡をしているので、患者さんも電話を入れやすくなるのではないのでしょうか。中には、COVID-19対応で切迫している病院に電話し、全くつながらないので当局に電話してきた方もいました。こちらから病院に伝達したところ、後日非常に感謝されました。

こうした関わりをきっかけに、当局に定期的に処方箋を持ち込んでくださるようになった方もいるので、オンライン服薬指導は新規患者さんを獲得する良い機会にもなっています。ただ、やはり薬剤師としてできることの幅の広さを考えると、対面で話すことが一番だと思います。

配送では住所確認を重視 誤配送で山口県に届いたことも

——薬の梱包や配送作業の手間もかかりますね。

曾我 薬を緩衝剤で巻いて、薬情と薬袋を入れるだけなので、慣れると1分でできます。ただし、件数が多いと大変です（写真2）。発送の締め切り時間に間に合わせるために、服薬指導と梱包の担当を分けて対応したこともあります。

当局では1日2回、運送業者に荷物を持ち込んでいますが、締め切り時間を過ぎると患者さんに届くのが1日遅くなります。早く服用したほうがよい薬がある場合、診療所の先生も優先的に診療したり、近隣の患者さんであれば「直接届けてください」と頼まれたりすることもあります。柔軟な対応ができるのは、日頃から連携できている医師だからこそですね。

——梱包や発送で注意をしていることはありますか。

曾我 住所の確認には重きを置いています。診療所でも患者さんの住所を確認しているのですが、間違いのないように服薬指導のときに二重に確認をしています。特に間違いやすいのは建

物名です。インターネットで住所検索をして名称を確認することもあります。

そうして注意を払ってもミスが起こることはあります。以前に、運送業者のミスで薬が山口県に送られてしまったことがありました。患者さんから「薬が届かない」と電話があり、業者に確認して発覚しました。同日に発送した患者さんにも電話で確認した結果、合計4件の荷物が山口県に誤配送されていました。すぐに調剤して直接薬を届けに行きました。

——お話をうかがっていて、対面よりもオンラインのほうが手間はかかるように感じました。

曾我 薬局としてはそうですね（笑）。

——これからオンライン服薬指導に取り組む薬剤師へのアドバイスはありますか。

曾我 オンライン服薬指導で用いるアプリ、システムを、まず自分で試しに使用してみることから始めることをお勧めします。どんな操作が必要か、画像がどの程度映るのかなど、患者さん側の目線を踏まえると指導しやすくなるはずです。また、前述のように、対面指導とは違って耳からの情報だけに頼らなければならないため、説明方法の工夫は必要だと思います。

——オンライン服薬指導の今後をどう捉えていますか。

曾我 首都圏に限れば、保険薬局の数は多いので、オンライン服薬指導はすぐには浸透しないように思います。配送料もかかるうえ、頻繁に通院する高齢の患者さんの多くはデジタルにそれほど慣れていません。それに患者さんも対面で話すことを望んでいるように思います。

ただ、オンライン服薬指導が広がると、今以上に薬剤師の付加価値が重要になると考えます。地域に関係なく、患者さんにとって利益があると感じられる薬剤師が選ばれることになるからです。患者さんとの信頼関係の構築、真摯な対応などはもとより、患者さんのニーズを理解し満たすことが薬剤師にはより求められるのではないのでしょうか。

——本日はありがとうございました。



第30回 服薬情報提供書には、何を書けばよいのか

入退院時の病診連携で起こりがちな問題点は 薬薬連携がスムーズならクリアできることが多い

先日、厚生労働省の会議で、これからの地域医療においては「ときどき入院、ほぼ在宅」といった考え方が重要だろうというお話がなされたと報道されていました。私自身、在宅訪問診療を10年ぐらい行ったあと、この7年ぐらいは医療機関での診療をメインにしていますが、まさに、そういう考え方がしっくりくると感じるケースが多くなっていると痛感します。

認知機能や身体機能が低下すると、一人で過ごすことは難しくなり、在宅で療養されることになります。また、老老介護も限界に達するとすると、施設での療養がご本人にとっても家族にとってもベストの選択になってくるでしょう。

このような方は、常日頃は、安定して過ごされているのですが、肺炎や脱水、転倒による骨折などで、ときどき入院を余儀なくされるケースが出てきます。入院後は治療が行われますが、それらが奏功し体調が復活すれば、また、退院して在宅や介護施設で療養することになります。

私が在宅訪問診療をしていたころは、退院後の患者さんの受け入れをしていましたが、病院で診療するようになると、在宅で療養されていた患者さんの入院の受け入れをすることになります。この双方において、医師が困ってしまうような項目や内容が、実は、薬剤師さん同士の連携が上手く行っていれば、クリアできることが多いことに気が付きました。

診療情報提供書だけでは分からない 医師が服薬に関して抱く疑問点は多々存在

まず、肺炎や骨折などで入院され、その治療が終わって退院されてきた患者さんを医師が診察したときに、投薬の内容が結構変わっていて驚くことは少なくありません。

医師の診療情報提供書には、それほど薬の内容について詳しく書かれているわけではありませんし、患者さんご本人やご家族様にお尋ねしても、あまりはっきりしたことが分からないことがほとんどです。

「なぜ、この薬が出ているのか?」「これは、いつまで飲むのか?」「以前飲んでいて薬が中止になったのはなぜ?」といった疑問が、ぐるぐる頭の中を駆け巡ります。

一方、緊急に介護施設や在宅から入院されてきたときには、医師の診療情報提供書には、「訪問診療している方だけでも、発熱し肺炎が疑われるので、入院加療をお願いします」という情報が載っているだけです。そこには処方内容は書いてありますが、これは最新の内容なのか、他のクリニックにかかっていることはいいのかといった疑問は常にあります。

お薬手帳や持参薬を見せてもらって、服薬内容を把握できたとしても、「この薬、なんで飲んでいるのだろう?」「いつから飲んでいるのだろう?」「絶対に必要な薬なのか?」といった疑問がたくさん浮かびます。

これらをサポートするのが、調剤のみでなく、服用後のフォローや、薬学的アセスメント、そして医師へのフィードバックを行いながら、医師と連携して薬物治療に当たっていた薬剤師からの情報提供です。

そして、願わくば、その情報や薬剤師同士でやりとりされた後、在宅なら訪問薬局の薬剤師、病院なら病棟担当の薬剤師さんから、「これは、〇〇のために服用されている薬で、今後も必要なようです」とか、「〇〇だったので、この薬は中止になり、その後も安定しているので、再開はしなくてもよいそうです」などといった情報を医師と共有していただければ、治療の安全性や質は飛躍的に向上すると思うのです。

服薬情報提供書を書くとなると、悩んでしまうケースもあろうかと思いますが、こんな背景を理解しておくと、何を書けば良いのかイメージしやすいのではないのでしょうか。

薬剤師教育と研修のポイント ～マリン調剤薬局における実践例から～



飯塚 知慈

株式会社アクア マリン調剤薬局
プロジェクトマネージャー エリアマネージャー 桂店

第1回(全3回)

新人研修導入の取り組み

薬剤師キャリアに大きく影響する新人研修 まず「現場のOJTを補足すること」を目的に設定

この原稿が掲載されるころは、今年もやる気に満ちた新入社員を迎えているころだと思います。私もまだ勉強が必要な身ですが、宮城県内の調剤薬局で教育担当を任せていただいています。今回は、調剤薬局で「新人研修」を導入するにあたり、実施したことを紹介いたします。

まず、新人研修のカリキュラムを組み立てるにあたり、「現場のOJTを補足すること」を目的として設定しました。指導者の指導スキルや経験、新人の学び姿勢や理解力によって左右されますが、OJT (On-the-Job Training) が薬局において最も重要な教育だと考えます。

若手職員は経験豊富な上司や先輩から、OJTを通して職場で必要な業務知識やスキルを習得し、後ろで見守ってもらいながら実践し、自信と経験を積み重ねていきます。

指導薬剤師が新人や学生に指導をしていると、近くにいる若手職員やベテラン職員も聞き耳を立てて、その関連業務の理解度を深めようとしてくれます。

新人たちは「疑問点や理解を深めたいこと」をそれぞれの研修店舗にて先輩に相談しながら実践をし、「キラキラした目」で指導の続きを受けようとします。この「キラキラした目」で新人から受けた質問に対して、回答する先輩たちも真剣そのもの。きちんと信頼できる情報元から検索し、その調べ方を教え、実例を交えて回答をすることでしょう。指導を受ける者、指導者、そして横目に見ている職員たち。それぞれのキャリアに応じて理解度を深めることにつながり、周囲のスタッフも指導経験を積めることは、新人がいる職場環境の良い側面だと思います。

薬剤師になって最初に見たこと、感じたことは、その後の長い薬剤師キャリアに大きな影響を与えます。

「薬局業務全般をコーチングできるスタッフと働く機会の確保」「さまざまな診療科の処方箋を通して学ぶ機会の確保」——新人に対してOJTを実施する上で「誰と働くか」「どこで働くか」は大切な要素だと考えています。

●新人研修スケジュール

4月 学生が社会に出て良いスタートを切るために、学生生活と職場生活の違いを理解する必要があります。「時間の使い方」「規則」「人間関係の違い」「目的や経済性の違い」について、学生生活との違いを共有します。そし

てイソップ童話「3人のレンガ職人」の話を通して、働く意味を新人に問いかけます。

「経営理念の理解」「社会人としてのマインド向上」「仕事の仕方の基本習得」「調剤報酬についての理解」「コンプライアンスの遵守」「服務規定の理解」など、店舗環境や指導者の経験に左右される部分を、まとめてWeb研修で対応することでボトムアップをはかります。また、社外講師をお招きして「接遇研修」を実施しています。患者さまのみならず、薬局と関わる全ての方に、気持ちよく安心してご利用いただけるようなプロのスタッフを目指します。

5月 保険薬剤師として登録される時期が近づいてきました。服薬指導や監査業務について勉強しながら、調剤報酬で特に躓きやすい算定要件、変更調剤のルールなどを身につけます。

6～7月 先輩に見守られながら、ドキドキしながら、自分の印鑑で服薬指導を始めます。研修店舗によって応需する診療科や年齢層に偏りがありますので、「妊婦・授乳婦・乳幼児・小児・高齢者・生活習慣病患者さま」など「かかりつけ薬剤師」を必要とする患者層に対して対応力向上を目指し、それぞれの注意点を「座学」と「ディスカッション」を交えて、2カ月連続で「かかりつけ薬剤師研修」を実施します(写真)。

8月以降 店舗環境にもよりますが、「一般用医薬品の販売」や「在宅医療」に携わる機会も増えてきます。新人たちも各店舗で戦力として現場を盛り上げてくれる時期です。地域で活躍する薬剤師の総仕上げとして、研修動画と資料



妊婦・授乳婦・小児のほか、ハイリスク群患者への対応をグループワークで考えていく(コロナ禍ではWeb開催)。(写真提供: マリン調剤薬局)

を用いて Web 研修を実施します。

「セルフケア・一般用医薬品販売手引き」について、症候学によるトリアージを学びます。受診勧奨や一般用医薬品の「保管・販売・陳列・販売記録・掲示物」など法令遵守で実施できるように研修動画を収録しています。

「在宅医療と地域連携について」計画書、報告書、個人情報提供同意書、介護保険契約書、重要事項説明書などの取り扱い方法、患者様や施設に出向く際の注意点、ケア会議や多職種連携の実態についてなど、外来業務と在宅医療業務の段差を理解し、一歩踏み出せるように研修動画を収録しています。

◆ ◆
新人研修を組み立てるにあたり、開催時期や内容は何度も修正しました。

「入社して2カ月ではチンプンカンプンでした」「ZOOM 開催でも距離を縮められるようにディスカッションを組み込む」「情報を詰め込みすぎず、振り返りの時間を取ろう」「配属前に変更調剤のルールを深められてよかった」「調剤報酬のプリントはボロボロになるまで書き込みながら今でも使っています」「在宅や多職種連携のセッションは9月くらいに身につけてほしい」——新人、2～3年目の若手職員、指導にあたった管理薬剤師、

エリアマネージャーなどに、開催時期や内容について何度もフィードバックを受けながら、現在の形式に至りました。それぞれの立場に寄り添い、学びの環境を整えることが教育担当の職責だと感じました。

●今後の課題

新人研修は、医療人として、社会人としての成長を促す意味もありますが、顔を合わせて同期の絆を育めるよう、機会を確保することも今後の課題だと思います。マリーナ調剤薬局らしく、スタッフ同士が顔の見える関係を大切にしつつ、安全面に配慮しながら、今後もさまざまな企画を計画していきたいと思っています。

●まとめ

みんな昔は新人でした。先輩方にたくさんご指導いただいて今があるはず。「この薬局で働きたい」と思って入社してから、初めての業務にドキドキ・ワクワクしたり、不安だったり、患者さまやご家族、近隣医療機関や介護施設職員さま、仲間に感謝されて、脳内でレベルアップの音楽が鳴り続けて、とっても嬉しかったですね。新人たちの感覚をいつまでも忘れないようにしながら、今後も新人教育に携わりたいと思っています。「開設者の思い」や「薬局の歴史や文化」をしっかりと受け継いで、それぞれの薬局に相応しい教育を楽しんでいきましょう。

薬価基準未収載

発売準備中

日本ケミファ 2023年2月承認取得製品

持続性AT₁レセプターブロッカー

処方箋医薬品^注

アジルサルタンOD錠10mg・20mg・40mg「ケミファ」 〈アジルサルタン口腔内崩壊錠〉

錠剤写真



注) 注意- 医師等の処方箋により使用すること

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等につきましては電子添文をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)

日本ケミファ株式会社

東京都千代田区岩本町2丁目2-3

2023年2月作成

おくすりに関する資料及び製品に関するお問い合わせ先

日本ケミファ株式会社 くすり相談室(安全管理部)

受付時間 8:45～17:30 土日・祝祭日を除く

TEL 03-3863-1225 フリーダイヤル 0120-47-9321



PHARMACY DIGEST [2023年4・5月号]

発行日 ■ 2023年4月1日

発行 ■ 日本ケミファ株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号

TEL: 03-3863-1211 (大代表) URL: <http://www.chemiphar.co.jp>

製 作 ■ 株式会社ドラッグマガジン / 印 刷 ■ 広研印刷株式会社